

令和3年度 第1回富田林市金剛地区再生指針推進協議会 会議録

富田林市 産業まちづくり部 金剛地区再生室

日 時： 令和3年10月13日（水） 午後2時～4時

場 所： 青少年スポーツホール2階 大会議室

委 員：出席者15名

増田 昇（会長）、中井 二郎（副会長）、友田 研也、溝口 俊則、吉村 明、
野村 恭子、廣崎 祥子、馬來 秀樹、大塚 英生、木全 剛司、中西 光司、
高橋 大河、佐々木 直樹、三崎 信顕、森木 和幸

欠席者2名

山田 泰弘、小野 達也

事務局：3名

【富田林市 産業まちづくり部 金剛地区再生室】

塚本 隆之（室長）、坂口 公一（参事）、松本 憲昌（室長代理）

1名（コンサルタント）

【特定非営利活動法人きんきうえぶ】 寺田 誠

会長が認める関係者（設置要綱第5条第4項）：3名

【内閣府 地方創生推進事務局】 野田 隆氏、長谷部 翔馬氏

【株式会社ダン計画研究所】 上岡 文子氏

傍聴人：0名

会議次第：1. 開会

2. 委員紹介

3. 議事

（1）金剛地区再生指針推進の進捗について（令和2年度）

（2）金剛地区再生指針に基づく取組について（令和3年度上半期）

（3）金剛地区施設等再整備基本構想について

（4）その他

4. その他

開催形態：公開

会議録：全文筆記

1. 開会

(事務局：塚本)

- ・開会、議事進行にかかる留意事項の確認等
- ・資料の確認

2. 委員紹介

(事務局：塚本)

- ・委員紹介
- ・設置要綱第5条第2項により協議会が成立していることを報告

3. 議事

(増田会長)

あらためまして皆さんこんにちは。これから4時を目途に進めてまいりたいと思いますのでよろしくお願ひいたします

お手元の次第でございますように、議事としましては、その他を含めて4件ございます。順次進めてまいりたいと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

それでは議事(1)、金剛地区再生指針の進捗について、令和2年度の分ですけれども、報告のほどよろしくお願ひしたいと思います。

(事務局：坂口)

事務局より資料2について、抜粋して説明

- ・各委員で確認いただき、追加訂正等がある場合は、10月22日までに事務局へ報告を依頼。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。令和2年度の進捗状況についてご報告いただきましたけれども、非常に議題も多いので、この進捗に関しましてはお気づきの点があったら、先程ございましたように、10月22日までに事務局にご指摘をいただくということでお願ひいたします。少し先を急ぐようですが、前に進めさせていただこうと思います。

それでは、議事の2番、金剛地区再生指針に基づく取り組みについて、これは上半期のものがございます。3つございまして、1つはまちづくり会議の部会、プロジェクト等の取組、それともう一つは金剛地区まちづくり会議の運営等について、さらに市が独自政策として進める取組について、この3つはお互いに関連しますので、一括で報告して頂き、議論を個別にしていくというかたちで進めたいと思いますので、事務局から説明のほどよろしくお願ひします。

(事務局：坂口)

資料3①「金剛マルシェプロジェクト」について説明

(事務局：寺田)

資料3①「拠点づくりプロジェクト(わっくCafé)」について説明

(友田委員)

資料3①「総合まちづくり部会」について説明

(事務局：寺田)

資料3②「金剛地区まちづくり会議の運営について」について説明

(事務局：坂口)

資料3③「市が進める取組について」について説明

- ・ Re:KONGO～まちをデザインするプロジェクト～
- ・ ∞KON ROOM の運営

(増田会長)

ちょっと報告が続きました。前から順番に、ご意見、あるいはご質問等がございましたら、1番最初にまちづくり会議が取り組んでいる3つのプロジェクトのご説明がございましたが、何かお気づきの点ございましたら、まずマルシェプロジェクトについてこれ少し課題としては、マルシェプロジェクトを担うグループ、世話人グループがなかなか形成されていないということで、これを継続させていこうとした時にそのあたりの課題があるということなんですけれども、それに対して何かアイデアとかご意見ございますかね、いかがでしょう。これに直接かかわられている野村委員、木全委員が関わられているということですが、何かご意見ございますか。

(野村委員)

私は、伏山台校区の福祉委員会の一員として、店を出店させて頂いている立場で、参加しています。冬場はホットコーヒーを中心にして、お菓子を付けてだしたり、夏場はかき氷器を持ってきて、かなり楽しくはしていたんですけど、やはりコロナの影響で福祉委員会自体での出店は控えましょうという時期が長くありまして、また10月23日から参加は始めるんですけども、野菜が3時にしか来ないということで、スタッフの方々からの売り上げはあるんですけども、純粋に来ていただいた方の売り上げはなかなか無かったので、マルシェ自体の魅力をもう少しあげていかないと、人は離れていく一方ということになりかねるので、野菜目当ての方は、やっぱり野菜が来る3時ぐらいに来て、買って帰られるので、滞留していただけるお客さんが楽しめる場所にしていく方法をみんなで考えていかないといけないのかなと思います。

(木全委員)

そうですね、カレー食堂をやっておられるのですが、午前中からお昼にかけては、子どもさんや親子連れが来られているんですけども、2時ぐらいからはもう引っ張れないんですよ。カレーを食べて楽しんだら、もうマルシェが始まる頃にはほとんど子どもさんたちが残っていないので、ちょっと残念だなあと、その方々がもうちょっと残れる何か、引っ張れる何かがあれば、今おっしゃったように運営の方法も少し、今までとは違うやり方で変えていかないと、野菜ありきではしんどいかなあという感じですね。拝見していると、お子さんたちはたくさんおられるので、お子さんと、その親、そのおじいさんやおばあさんをターゲットとして何か方向転換して、野菜メインではなく、そういう方針に変えていく方が良いのではないかと考えております。

(増田会長)

これ今は全く世話人はいてないのですか。

(事務局：寺田)

マルシェに関しては、まちづくり会議のメンバーで中心になっている方がお一人、チラシをつくったりとか、出店者の方への声掛けとかは基本的にはその方お一人でおこなっていますが、実際の運営とか当日の準備片づけとかは事務局が中心になってしまうというところです。

(増田会長)

そのお世話をいただいているお一人を中心に、野村さん、木全さん、あるいはこども食堂をされているわっく Café メンバーの方で少しつなぎの1時間ほど、読み聞かせ会をしませんかとか、ワークショップとかをしませんかとか、なんかそんなアイデアの出し合いをして、少し考えていくことは可能なんじゃないかな。

(事務局：坂口)

そう言った考えで、今度23日にですね、木全さんのお店とか、野村さんのカフェとか、わっく Café さんにも連携していただいて、ハロウィンイベントっていうことで、子どもが各店舗を回る、ラリーというんですか、各店舗回ってシール貼ってもらって、プレゼント、お菓子をもらえる的な事を実験的にやってみて、毎月毎月はしんどいと思うんですけども。何か定期的に季節に応じて、そういったいろんな出店者さんの連携でその時間の間つなぐ取組っていうんですか、できればいいなということで、次回上手いこといったら、またそれ連携会議的なものを持って、定期的にやっていけないかなっていうことを相談できればなと思っています。

(増田会長)

例えばね、紙芝居とかをしているグループとか、童話の読み聞かせみたいなグループがいっぱいしゃれば、連携して1時から3時の間そのような活動をやって頂くような、そういう仕掛けをするの一つはいけるだろうと。もう一つは、農業関係とか健康関係で、食材としてレシピの開発だとか、あるいは機能性食材の話とか、農作物についての談話みたいなことをしてくれる人と連携するとかそんな方法もあります。

(中井副会長)

ちょうど子どもカレー食堂が2時で一応終わるんですね。ただ2時で終わるんですけど実質はやっぱり1時ぐらいで人はひいてしまうんです。野菜が来るのは実際3時半ぐらいとかにしか来れないので、その間が空いてしまう。その間何か埋めるか、野菜を早く来てもらうかなんですけども、埋める方法として僕は一つ、以前、昔やってたことがあるんですけども紙芝居じゃないんですけども。子どもの人形劇をやる集団があって、その人を呼んでくれば1時間ぐらいだったらやってくれると思うんですよ。そういうことでも何かイベントの間に挟まないと、子どもたち絶対帰ってしまうんで、子どもは別に野菜目当てじゃないから、親と一緒にそこまで引っ張ろうと思うと、子どもさんのイベントを1時間か1時間半、誰かが主体になって取り組んでいくという方法しかないんじゃないかなというふうに思います。

(増田会長)

出店いただいている農家が何件ぐらいで協力されているのか、ある意味その中で、協力して話し合われて、野菜の話とか、農業の話とかのワークショップをしてもらおうというのも非常に魅力的なんですけどね。軽トラ市とかなんかでは、よく農家の方がワークショップをして、うまくいけば自分の農地までツアーで来てもらえとか、そんなところまで発展してくれるといいですね。

いずれにしても、チラシを作ってくれている方がいろんなことを一人でアイデアを出すのはしんどいでしょうから、お忙しいでしょうけれども、野村さんなり、木全さんなり、わっく Café の中井さんなりが、少し議論する場を作って連携ありかたみたいなことを議論するのは一つかと思いません。よろしいでしょうかね。

その次がわっく Café ですかね、いかがでしょう、何かございますか。順調にいったるみたいですが、何かございますか。

(事務局：寺田)

廣崎さん、よかったら今日のカレー食堂とかPRしてください。

(廣崎委員)

はい、まさしく今日の5時からカレー食堂をやっているので、見ていただけたらと思うんですけども、8月から2回開催するにあたって小学校の方に、あと金剛中学校の方にチラシをまかせていただいて、そのことによってすごく反応があったなっていうことと、あとURさんの団地の1階のところに掲示させていただいてそれ見ましたっていう親子とか、ご高齢のご夫婦が2人でやってきて、和やかに食べている姿ですとか、子どもが100円握りしめて、兄弟で買いに来るとか、家族の分をお使いで買いに来るっていうそんな姿も見られるようになってきて、何かすごく元気になってきているなあと感じています。

あと、保育園と幼稚園の方にチラシがまけていないなということに気が付いたので、近隣の幼稚園、公立幼稚園、保育園等にも案内ができたらなっているのが、今思っている課題です。

(増田会長)

はい、これ継続していこうとすると非常に大事なことですけども、お金はちゃんとまわっているのか。赤字にならなくて、収支はトントン以上になっているかどうかということことですが、いかがでしょうか。

(中井副会長)

それは私の方から、会計上はその子ども食堂単体での収支と、それからそれ以外の事業もやってまして、先ほどありましたボックスとか、トータルの収入としては、もう今のところ、赤にならんといけてるなとは思ってます。子ども食堂だけを取り上げたらどうかと言われると、実はこれ材料がですね、JAさんとか、関西スーパーさんとか、いろんなところから寄付が入ってくる。多分材料そのものは寄付入ってきますので、そういうのとあと市から補助が出てきますので、それを入れると赤にはならないで済むかなとは思ってますけども、ちょっとまだ1年経ってないので何とも言

えないところがあります。

(増田会長)

子ども食堂なんかは、それ単体で経営収支を考えるっていう話ではないんだろうと思うんですね。やっぱりそれ以外の、要するに収益をそこにかましてまわしていくみたいな、それで赤にならないというそういう経営方針だと思うんですね。子ども食堂だけで収支をしようと思ったら値上げに繋がってみたいとかするので、それはやっぱり当初の趣旨から違いますので、子ども食堂でかかる費用をどこから生み出してくるかみたいな。そんな仕組みが、先ほどおっしゃったようなボックスの売上とか、あるいはカフェの運営とかで出てくるという、そういう考え方がいいんでしょうね多分ね。その辺りのことがきちり担保されるってことは大事やと思います。

よろしいでしょうかね。はい、高橋委員どうぞ。

(高橋委員)

高橋です。子ども食堂に関しての話が出ましたので、社会福祉協議会と市の方ではこども未来室、あときんきうえぶさんの3者が事務局になって、子ども食堂への支援のネットワークをやっております。その中で富田林市は9つの子ども食堂があるんですけどもこのカレー食堂さんは、一番新しく昨年度末にできまして、今おっしゃってもらったみたいに関西スーパーと、あとJAと、社協として協定を結んでまして。食糧支援を、今日もちょうどもらいに行く日で朝僕ももらってきました。また毎月1回、明日になるんですけども、食材を各食堂さんに取りに来てもらって、というところでの、いわば食糧支援お金の部分の支援であったりとか、副会長も仰ってもらいました市からは、その助成金としての活動費も多少でも出たりして、その辺はこれからも継続して、できる支援をさせていただこうかと思っておりますので、継続してこの子ども食堂もここでもやっていただけるかなというふうに思います。

(増田会長)

そうですね、継続性というのは非常に大事ですので、そのあたりのことをきちりやっていただけるとありがたいと思いますね。はい、ありがとうございます。

その次は、総合まちづくり部会ですね、何かございますでしょうか。特に寺池公園での活動というところを中心とした活動されておりますけども。これ、例えばの例ですけれども、昔大阪府でため池オアシス整備事業というのがあって、ため池を整備するときに、それを管理するため池コミュニティというのと、ため池環境整備とを一般的に、ハードソフトをやるというやり方をやった時期があるんですね。それに近いんだと思うんですけど。極端な事を言うと、公園協議会みたいな形で協議会を作るのか。ため池コミュニティみたいな形で、ため池の共同管理みたいな形で協議会を作るのか、何らかの意味でそういう協議会方式みたいなやつを形づくっておくというのは一つかと思うんですけどね。

(友田委員)

ひとつは水利組合とか市から言われてるのは、地域が動き出して、最初のころは熱心にやるんですけども、熱も冷めてきて、あとは残った市や水利組合が行うということでは困ると。我々は地

域委員を入れた組織を作って、技術的に難しい部分については、水利組合さんであったり、市の公園部局であったり、地域でできないところは連携するとか、そんな体制を作りたいなと思っている。その主体制に自治会を全部くっつけていく、そういう体制づくりをイメージしている。それを公園メインにするのか、ため池をメインにするのかは、良いアドバイスをいただいた。検討したい。

(増田会長)

大阪府のため池コミュニティっていろんな形態あるんです。共同管理を原則にするようなコミュニティもあれば、分担管理で、水利組合はこのエリアをして、自治会はこのエリアをして、子ども会はこのエリアをしてみたいな、そういう住み分けをやってる管理の仕組みもあるし、年に1回だけ合同管理日を決めてやりましょうねというやり方やってるところもあるし、いろんな20数ヶ所あると思いますので、一度確認してみてください。そういうので上手く水利組合と地元自治会と市と有志とで協議会を作られるのが一番いいと思います。はい、どうぞ。

(中井副会長)

昔農林部でオアシス整備構想っていうのがありまして、それに従ってやるときに、地元の協議会みたいのを作って、府はハードものを整備してくれると。そのハードもに対し、あと維持管理が入りますんで、そういうものを地元の協議会でやっていくっていうな、ことを考えてやってた時代が、ありまして、多分まだそのような所、名前が変わってるかと思いますが、その構想を引き継いでると思うんで、それ1回探してみたらわかると思う。

(増田会長)

ため池環境コミュニティ会議みたいなものは、ずっと10年ぐらいかかわっていたことがありますので。

はい、よろしいでしょうかね。その次は、まちづくり会議の運営について、ここについてはお世話グループが形成されそうだというご報告がありましたけれども、何か補足はございますでしょうか。

今まで課題になってた、お世話グループがなかなか見つからない話が、10名程度の人がでてきたということで、前に進みそうだとという話なんですけども。

(事務局：坂口)

はい、この協議会に参加いただいているメンバーも、結構な人数がそこに参画いただいているということで、今まで我々施策進める中でも、なかなか細かいところで相談できる相手がいないとか悩みがあったんですけども。いろいろと引き続き協力の方お願いしたいと思いますので、またよろしくお願いたします。

(増田会長)

まあこれできたらですけど、やっぱり誰か代表を決めて、何か例えば公園の利用申請するとき、代表者名いるとか、あるいはどっかのファンドを取りに行くときに、代表者名がいるとか、いうふうなことがあるので、そのお世話グループが大体目に見えてきたらその中で、仮でもいいですから、

代表を決めるか。あるいは極端なやり方は、1回ずつ持ち回りをして会議をするような、1回目は、誰かがやって、2回目は誰かが座長して3回目は誰かが座長をしてみたいな、そんなやり方もあると思いますので、いろいろ試されて、例えばやっぱりファンドなんかを取りに行こうと思うと代表がいたり、あるいはまちづくり会議としてどっかの市の施設を利用しようと思ったときに、代表者名とかがいるので、その辺りのことは少し、もう一步進まれたらいいと思うんですけどね。この点に関してよろしいですかね。よろしいでしょうか。

はい。その次が、市が進める取組についてということで、Re:KONGO、∞KON ROOM など色んな取組が動いていると思うんですけども、今日、オブザーバーで来られている上岡さんですかね、たぶんゆくゆくというか、近々まちづくり会議のメンバーに入ってもらおうということも必要なのではないかなと。かなりやっていることは同じようなことで、お互いに連携でいることがたくさんあるかと思うんですね。そういうプログラムの共有とか、連携とか、場所の棲み分けとか、そういうことを一度考えられたいんじゃないでしょうかね。

(事務局：坂口)

はい、この間様々な施策を検討していく中で、まちづくり会議との連携づくりをおろそかにしていたなという部分が多々あると思いますので、その辺留意しながら、拠点の運営も含めて、あの地域の皆さんと、一緒に何か取り組んでいければと考えていますので、またいろいろとよろしく願いいたします。

(増田会長)

突然振って悪いですけど、上岡さん、何か一言ございますか。

(オブザーバー：上岡氏)

本日オブザーバーとして参加させていただいております。富田林さんとUR都市機構様が設置された、金剛魅力向上拠点∞KON ROOMの運営をしておりますダン計画研究所の上岡と申します。よろしく願いいたします。

今お話いただいた通りですね今日、何名かの方にですね、はじめましてということで、ご挨拶させていただいたんですけども、個人として皆さん∞KON ROOMも利用していただいたり来訪していただいたりということがあると思うんですけども。なかなかやっぱり住民さん全員で見ると、まだまだ認知もされていないとか、その場所も知らなかったとか、日常的に聞きますので、ぜひ、機会があればまちづくり会議の方にも参加させていただいて、我々の活動を認知していただいて、一緒に取り組める機会があればなと思います。ありがとうございます。

(増田会長)

例えば、紙芝居や読み聞かせをしたいみたいなそういうグループが、ひょっとしたら∞KON ROOMでも活動をされて、それからまち中へ展開していく場として、まちづくり会議と連携してるとこのマルシェの日に、それと発表会みたいな形でできるとか。何かそんなところへ繋がっていったらうまいんじゃないかなと思いますので、ぜひその辺、はい何か。

(友田委員)

私、上岡さんとは、寺内町で一緒にやってたことがあって、10年前ぐらいですけども、いろんなアイデアを持っておられるしね。我々が∞KON ROOM でやってる事をあんまり聞いてないので、そこに対してどういう協力体制とか、どういう事をくっつけたらみんなが動きますよとか、そんなことがあるんで、まちづくり会議とか、総合まちづくり部会とかで、「今これからこういうことやりたいんです」っていうような話とかを出してくれたら、我々もこういうタイアップとか同じことをやろうとしてるんでそれを付けましようとか話ができます。そんなことがあるんで私はむしろ来てもらって、話ししてもらったらいいと思います。我々総合まちづくり部会は、外部に開いてますし、まちづくり会議の場でも来ていただいて、今こういう取り組みをしたいんですとか、話を聞けば、いろいろと連携体制組めると思いますんで、そこはよろしくお願いします。

(オブザーバー：上岡氏)

ありがとうございます。

(増田会長)

今言ったような話、少し前向きにご検討していただくということでよろしいでしょうか。

はい、吉村委員。

(吉村委員)

一つだけ質問なんですけど、Re:KONGO まちをデザインするプロジェクトね、これ僕行こうと思ったら3時までやからあかんかったんやけども、若い人がどういう意見出してるとか、これは非常に大事や思うんで、さっきまちづくり会議に参加されたらという話ありましたが、これはもう絶対必要なことかなと思うので、どういう話が出るのか、若干でも教えていただけたらありがたいかなと思ってね、何を考えはるのか僕はわからないもので、はい。

(増田会長)

ちょっと紹介して、簡潔に補足ございますか、いかがですか。

(事務局：坂口)

何か意見要望とかそんな場ではなくってね、みんなで一緒に何か活動しましょうっていうことで、そういったことを、みんなのやりたいこと、できること、したいことっていうものを引き出してる段階なんですけども、ワークショップでまちの良いところを嫌いなところとか、理想とするまちの将来像とかそんな形で、話、意見を出し合いとかをしたんです。

案外、金剛地区にいろいろなおいしい店があってよく行くよとか、そんな話題も出ましたし、子どもを連れて遊びに行くところが少ないねとか、そんな意見も出ましたし、すいません、ちょっと細々としたこと、すいません今詳細については資料がなくて、まちづくり会議でワークショップした時と同じような意見も出てきてますし、そうですね。

後半の話でもあるんですけどもね。基本構想を策定する中で、まちにどんな機能があったらいいのかなっていうところもこれからどんどん聞き出していければなと思ってますので、そのあたりは

まちづくり会議さんとも同じことやってるんですけどどこかで融合しながらできればなと思っています。

(増田会長)

ここは私の理解ではこれ見ると、まだどちらかという、自分らのグループで、楽しみたいという、ゲスト型の活動なんですけど。この中には多分市民さんに市民サービスするようなホスト型の活動をしたいという芽生えを、どんどん出てくるし出てきてるんだろうと思うんですね。

そういうふうなホスト型の活動が芽生えてくるとまさにこのまちづくり会議とどう連携するかとか、どう役割分担するかとかいうようなところへ、ずっと繋がっていくと相乗効果があらわれていくと思いますので、是非ともそんな形で考えていただければと思いますけどね。

今日皆さん方も大体そういうふうな方向で、連携しましょうとか入ってくださいって話だと思いますので、よろしく願いいたします。よろしいでしょうか、

それでは予定より10分ぐらい遅いですが、第3議題の金剛地区施設等再整備基本構想、極力簡潔に方向をいただければと思います。よろしく願いしたいと思います。

(事務局：松本)

・事務局より資料4-1、4-2について説明

(増田会長)

はい、ありがとうございます。これまでも何度かこの場で議論してきたと思いますけれども、それのとりまとめに向けてということで、第一段階、基本構想編の頭だしぐらいのところご説明いただきました。何かご意見、もしくはご質問等ございますでしょうか。いかがでしょう。

はい、吉村委員どうぞ。

(吉村委員)

基本的な考え方ということですが、こういう議論すると必ず最初におどし文句のように、人口が減っておりますので、どうするんだということでもまず言われるわけで、それから議論を始めるのは、僕が一番この最初会議出たときは、だから魅力をもう一回発見して、若い人に来てもらおうと、そういうところから始まったんで、余りにも前提として減るからどうするんだということじゃなくて、もう一度原点戻ればね、魅力を再発見すると、そういう中で今何が足りないのかということ、視点としてはそれが一番必要なと思います。でないと、すぐにあの施設はいらぬとか、そういう議論がすぐ出てきますので、ますます魅力がなくなると。僕の確認によれば、緑が多い公園が多い、非常に空間として非常に安定というか、落ち着いているというのが一つの魅力で、都市部へのアクセスも非常に便利だと、極めて便利だところだったというのが、これが金剛の一つ特徴だと思いますので、そこのところを絶対に抜かないようにと。

それと人口減少はすごく言われるんですけど、僕の近所を見ただけでも新しい家がね、やっぱり一つの家が二つになって、小さい子どもとか若い人たちが増えてきているというのが現状ですから。ちょっと外れますが向陽台の方なんかはね、非常に新しい、若い方々が増えてまして。だから、そういう別の側面もあるので、さっき若い人のプロジェクトでどんなこと発言出てますかって聞い

たんですけども。それを見ないと、老人の町でいいんじゃないかちゅう意見まで出てくるんですけども、ちょっとちがうなど。そういうことをまずね、前提としてですよ。僕は必要だと思っていますので、ぜひその点をご確認していただきたいと思っています。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。よく日本の報告書は課題発掘型から出てくるんですけど、反対に魅力発見型みたいな形から、今おっしゃっていただいたように、金剛ニュータウンの魅力で一体どんな魅力があるのかというところからも、ちゃんと2章に入れると。いうことで、新たな可能性を発見するという、そんなスタンスでというご意見です。ありがとうございます。

他いかがでしょうか、どうでしょうか。はい、溝口委員どうぞ。

(溝口委員)

第4章の基本構想の実現に向けてというところで、四つ。中央公園、銀座街商店街、駅周辺、寺池公園、挙げられておりますけれど、このまちづくり会議がもうすでに5年、再生指針がまとめられて、7年ですかね。この間いろいろまちづく会議等で論議してきた中で、中央公園の問題、寺池公園の問題については、寺池公園については先ほど友田委員の方から、ずいぶん前進した取組が報告されております。金剛中央公園についてはね、これは私ははっきり言ってもうまちづくり部会から、最終的なボールは投げかけた。後はそれをどう行政が対応するかと。この中にPFI方式というものも謳ってるわけですから、私の方も、スポーツホール建て替えの問題についても、PFI方式というものも提案をしてきているわけです。中央公園については、ここに、いろいろ不具合ですねアクセスの問題とか、施設の老朽化、こういうものも含めて、提案を最終的にはしているわけです。昭和株式会社さんが、調査検討をした内容ともほぼね、内容的にはリンクしてるんです。そういうものをこれからどうしていくかということになりますと、ここに書いてますように、実際に行政がこれからどう動いていくかということにも尽きるんじゃないかなと思うんです。ですからその辺をね、もうはっきり行政サイドとしてどうしていくのか。できるのかできないのか含めてね、やっぱりそれをきちっと踏み出すべきではないかなと、私はもう強く今思っているところです。ぜひよろしくお願ひしたいと思うんです。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。4章のところの有効な事業手法の検討とか、多様なステークホルダーの連携とか、その辺ちゃんとイメージを持って書き込めということですので、よろしくお願ひいたします。

(事務局：松本)

はい、ありがとうございます。

(増田会長)

はい、友田委員どうぞ。

(友田委員)

よく似てる話なんですけどもね、今こういった大きい4施設があつてそれを変えていきましょうとするんですけども、それを変えていくところの覚悟がいるんだと思うんです。今までの同じ方策やったらできないですよってということです。中央公園でいうとスポーツグラウンド的な活用が主で野球をやってる方々とか、市外の野球のプレーヤーの方々に貸し続ける状況が良いのかとか、寺池公園のことについては大阪狭山市とか水利組合との協議をしないのかとか、中央大通りについては、あそこの空間をどういうふうな道路空間として活用していくのかとか、ピュアのところについてはURと協議しながら、その後の跡地をどういうふうにしていくのだとか、今までのままやったら変わらなくて、結局ああいうような形になってしまっている。本日の説明を聞きますと、公園どれ見たって誰も使ってない公園じゃないですか。公園施策とかも今までおかしかったんだというのを一つ思いますが、今こそ、何でこのようなことになってるかっていうところは、行政が覚悟して変えないと駄目だと思います。仕組みとか制度とか運用とか、それで作り方につきましても、いっぺんにハードに行くんじゃなしに、今はプレイスメイキングとかでは、まずはソフトで入っていきながら社会実験をして、皆さんの認知や既成のものを変えていきます。皆さんの認知・合意を得ていかなないと進みませんから、そういった周知をするような社会実験をやって、こういうふうに変えていったら便利ですよねって見せていって、そのステップを踏まないと、結局判断もできないし実行もできなくなるので、そういった仕組みも含めて、どういうプログラムのもとでここを改変するんだということを、本当に真剣に考えないと動かないと思います。寺池を動かすのにも、組織性の担保を強く言われていますので、その確保に向けて、覚悟を持って取り組んでいます。覚悟を持ってやるっていうことをしないと、何も変わらないです。今のルールと枠組みの中で物事やろうと思っただって、ニュータウン再生なんかできないです。だからそこについてはきっちりと考えていただきたいのと、この中で書き込んでいくということ。

(事務局：松本)

はい。ありがとうございます。

(増田会長)

これ、あれですかね11月にもう一度まちづくり会議にお諮りいただいたり、あるいはパブコメパブコメまでの間少しあるので、総合まちづくり部会なんかとも意見交換を密にさせていただいて、はい。第4章まで11月までにまとめるのでしょうか、提案としては。

(事務局：松本)

年内に4章までまとめて素案を出せたらなというふうに思ってるんですけども。

(増田会長)

なるほど、分かりました。そんなスケジュールだそうです。他いかがでしょうか、少し答えにくいとは思いますが、多様なステークホルダーとの連携あたりで、URさん、南海さん、あるいは、ステークホルダーではないかもしれませんが府の住宅政策というようなあたりで、何か発言ございますでしょうか。

(馬來委員)

UR都市機構の馬來です。先ほどのお話からも出ているとおりでですね、URはピュア金剛のところになってくると思いますが、ピュア金剛の取り扱いにつきましては、今後、富田林市とも連携しながら、地域に必要な機能ということも含めて考えていきたいと思っております。今後とも、皆様と連携しながら考えていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

(事務局：松本)

ありがとうございます。

(大塚委員)

いつもお世話になっております、南海電鉄の大塚でございます。私どもも駅前の関係につきましていろいろ駅施設とか、あとショップ南海というものを営業させていただいてるんですけども。その辺の活性化につきましてもソフトにつきましてはこういう場の皆様のご意見もちょっと参考にさせていただきながら、またハード面の整備につきましても、富田林市様の今の公園整備の話とかもございまして、UR様のお考えもおありと思っておりますので、その辺もちょっと歩調合わせて一緒に検討させていただきたいなと思っておりますので、引き続きましてどうぞよろしく。

(事務局：松本)

よろしくお願いします。

(三崎委員)

大阪府の三崎でございます、いつもお世話になっております。前回もちょっとご意見させていただいたんですけども、まずちょっと市の先ほど友田委員の方から市の方のご要望みたいなものがありましたけども、ちょっと市の方にはやはり民間さんの色々なプレーヤーの先ほどのわっく Café の件もそうですけども、やっぱりちょっとそのマネジメントっていうんですかね前も申し上げましたけども、やっぱり同じような施設がやっぱり重なったり先ほどのご提案でも、いろいろカフェなんかどこでもこんなにいっぱい作って、経営成り立つはずがないので、全体はやっぱりマネジメントをしていく必要があると思うんです。さすがにこれ今まちづくり会議も、まだそこまでに、ここマネジメントできる体制にはなっていないので、その時はやっぱり市さんとかやっぱり、ご専門の方なんかが入ってですね、やっぱり誘導していきなり、主導的にやっていただくということが、大事なかなという感じはします。あと公共施設はですね、おっしゃるようないろいろあって、かなりちょっと民間さんの市場環境がどのぐらいかって調査されてるかわかんないですけど、やっぱり民間の方を、結局行政側も結構お金がないので、民間さんがどのぐらいで出してくれるのかっていうところですね、かなり厳しいところだろうっていうのは想定できるので、その中で友田委員がおっしゃったようなまず自分たちでできるところとか、やっぱり何か何をきっかけにやっていくのかっていうところと、あと4ついっぺんにやるのではなくてまずここを最初にやっていくとか、まずこのプロジェクトをやっていくとか、あと先ほどの大通りなんかやっぱりちょっと坂道なんか気になりますけど、綺麗な道ですのでそこに、見えるような形で、何かやっていくとかですね何かそ

ういう皆さんが参加できて、何か面白くて楽しいようなことをまず見据えてそこから公共施設の整備に繋がるようなことをやっていただければいいかなと思います。以上です。

(事務局：松本)

はい、ありがとうございます。

(増田会長)

あと、今日内閣府の方からお2人ご出席いただいて、少しあの全体をとおしてでも結構ですので、コメントなり、感想なりをいただければと思いますけれども、いかがでしょうか。

(オブザーバー：野田氏)

ありがとうございます。改めまして内閣府から参りました野田と申します。

内閣府が前回の会議から引き続いて出席させていただいておまして、私個人としては先日担当が変わった関係で、初めてお伺いをさせていただきました。そうですね、いろいろ興味深いお取組を拝聴しておまして、現状としては、いろいろ活動を立ち上げて、その中身をブラッシュアップされていくのと同時に、活動に参加される方を今巻き込まれてるような段階なのかなというふうにお伺いしておりました。そうした中で今回ご出席されてるような、中心となって積極的にご活動されてる方と、あるいはちょっとこう、まちづくり活動とかは自分はいいかなというふうに思ってるような方の間にいるような、何か活動はやってるなと思いつつも、一歩踏み出せないような人々をもうちょっと巻き込んでいくということが重要なのかなというふうに感じまして、例えばこの∞ KON ROOM なんかでサポートスタッフだったり、ボランティアスタッフだったり不定期であっても活動に参加できるようなといいますか、10かゼロではなく少しでも参加できるような枠組みづくりというのが大切かなというふうに感じました。あと実はこの会議の前、寺池公園も少し周り拝見いたしまして、ちょっと権利関係なんかは詳細を承知してなかったんですけども、この公園の周り一周、ランニングとかジョギング、ウォーキングできたら、すてきな環境だなというふうにはパッと見た第1印象として、私も感じたところでございます。

すいません雑ぱくでございますが、以上でございます。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。長谷部さん何かございますかね。はい。

(オブザーバー：長谷部氏)

はい、今日は参加させていただきましてありがとうございます、内閣府の長谷部と申します。

先ほどの中でもお話あったように、私も今年の4月から、この団地再生等々にかかわらせていただく関係で、コロナもあった中で、なかなか現地に伺うこともできず、今回初めて現場を拝見させていただきながらこういう場に参加させていただいたんですが、団地再生、内閣府でのハンズオン支援ということで幾つかの自治体さんを見ているんですけども、やはりどこの自治体さん、どこの団地だったり自治体さんも、人口減少、団地がすたれていってしまうとすごく危機感を持たれているというところがすごく耳に入っておりまして、その中には、団地の高齢化が進んでしまう、子ども

もがどんどん離れていってしまう、若い世代が離れていくっていうところはすごく課題をいろいろ見られている中で、こちらの金剛団地の方でもそういう課題がある中で、先ほどの住民ニーズであったり、こういうところが足りないっていうところでもやはり子育て支援機能であったり、そういうカフェ等の飲食店が足りないとか、子ども向けの機能が足りないというところ、いろいろ課題を挙げられているので、そういったものいろいろ抱き合わせた中で、何か団地の中で子どもをみんなで見守るようなカフェであったり、子どもも一緒に行ける、でも子どもは遊んでいる中で、お母さん方は談笑できるような施設であったり、そういう部分もいろいろ取り組まれている自治体さんもありますし、我々の方でも他の自治体さんといろいろ意見を交換する場等も提供できればと思っています。マルシェの方も、いろいろ取り組まれている自治体さんもありますので、そういったものをいろいろご参考にいただきつつ、言い方はあれですが盗めるところは盗んで、まちに生かしていただきたいなど。その中で内閣府としても、いろいろ支援させていただければなというふうに思っておりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。あと一点後で出てくるかもしれませんが、もう一つはやっぱり住宅政策ですよ。少し途中では、ございましたけど少し今の若い世代のニーズに合った住宅、住戸のリノベーションというんですかね。そのあたりがあって魅力性を感じて新しい人が入ってくるという、ここの、これでは施設ですから、この中にはダイレクトに住宅のリノベーションみたいな話が触れられてないんですけど、やはり若年世帯を呼び込もうとした時にそのあたりのところどこまで触れておくのか。キーワードの中にも若年層の定住促進と書いてますので、住戸の改善や供給のあり方みたいな話を、先ほども少し100坪なり、200平米の土地が半分にされて、若い世代が取得できる価格帯になって住宅供給されてるとかですね。何かその辺りのことをどっかで触れるのか、その辺りも少しご検討いただければと。はい、三崎委員どうぞ。

(三崎委員)

すいません、先生に先ほど振られてちゃんとご説明しなかったので、住宅政策的に言うと、ちょっと気になるのが隣の大阪狭山市、ご承知の通り人口増加してるんですよ。かなり、どちらかというところも狭山ニュータウン持って、府営住宅は人口減ってるんですけど、戸建住宅地はそれなりにやって、いわゆる空き家になっても結構まわってらっしゃるっていう話を聞いて。実はちょっと狭山のデータをちゃんと見てないんですけど。URさんの団地がいろいろリノベーションとかされて、その効果とかその波及性っていうのはあるんですけど、さすがに4千とか5千ある中で、なかなかそこまで全部多分URさんとしては無理なので、そういった時に戸建住宅の方で、今どんな状況になって、その辺は結構自治会の方とか地域の住んでらっしゃる方多いので、まずその皆さんの肌感覚としてどんな感覚なのか。空き家になったらほったらかしでなってるのか、それでもちゃんとメンテナンスして次の方がうまく回っているのかですね、多分そういうことを報告しながら、先ほど、吉村委員でしたっけ郊外の方で、何か新しい住宅が若い人たちも流通してるとか、多分そういう日常がわかってらっしゃることをうまく積み上げて、全体に金剛として人口がどういう状況になってるのか、減ってるって先ほどありましたけど、そうしたら、狭山とどう違うのか、同じ金剛駅降りて何でみんな狭山行って、こっちに来てくれないんだとかですね。なんか

そういうことをちょっと皆さん方でご議論いただくなり、市の方がちょっと分析いただくなり、されたらなあと思いました。以上です。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。やはり住宅がどう流通するかということで、この部分も含めて重要な視点ですので、そのあたりここの中で触れるのか、あるいは別途か、整理としてはこの4エリアが出てるんですけども、少しベースになる住宅の話をどこかでふれとかなないと、キーワードは達成できないかと思うんですね。いまの三崎さんの発言もご参考にしながら、少し書き込み方を考えていただけたらと思います。ほかいかがでしょうか。はい、中井委員どうぞ。

(中井副会長)

今の三崎委員の話と関連しますけども、戸建住宅はだいたい100坪から150坪ぐらいはあるんです。それが空き家になって売られていくんですけど、そのテンポが非常に遅い。特に寺池台は遅いんですね。寺池台の特徴は、もう1つ金剛植物園さんが非常に換地で生産緑地を持ってはるわけで、そこが、会社の経営にもよるんでしょうけども、順次手放してはって、戸建ての住宅地ができていくという状況があって、その戸建住宅ができるときは、いたい50坪か60坪程度の住宅なんですけど、そうすると若い人に手が届くんで。そこに入ってくる人は、割と若い人が入ってきて、ちょうど小学生ぐらいの子が入ってくるということで、伏山台小学校なんか子どもの数が増えていくという傾向にあるんですね。ただいずれにしてもテンポが非常に遅いんで、その辺が狭山と違うところかなというふうに個人的には思っております。

(増田会長)

はい、三崎委員どうぞ。

(三崎委員)

またあともう1点、先ほどここ5歳階級別の人口の減少の部分ありますちょうど12ページですね、これどこでも一緒なんですけどやっぱり若い、泉北ニュータウンもそうなんですけど若い世代、第1世代って最初に入居された時からこれだいたい第2世代ぐらいの方かもしれませんんですけど。結構は、若い人が20歳とか25歳とかそれなりの年齢に達したときに、単身で住めないっていうのもありますし、いやいわゆる家族になって結婚しても何か住むところがないっていうのは、泉北なんかよくあるんですね。この減ってる理由、多分、転出転入みたいのを市のデータ見ればすぐわかと思うんですけど、なぜ出てそれは住宅が、先ほど中井委員がおっしゃったように、そこは若い世代が住む住宅が、この住宅が例えばURさんしか選択肢がなくて、戸建てはでかすぎて値段が高過ぎて住めないと、そしたら皆さんは結局どこに行ってしまうのかっていうのを、やっぱり丁寧に見て行って少なくとも富田林の中でちゃんと移動していくとか、ここでなくても他のところにあるとかですね、ちょっと循環するような視点で、見ていただければいいかなという感じがしました。以上です。

(増田会長)

はい。事務局どうぞ。

(事務局)

様々なご意見ありがとうございます。先ほどの人口動態の話でもう割と進学とか、ご結婚を機に富田林から流出するっていうのも傾向あるんですけども、まだ金剛地区の周りではですね割とちょっとミニ開発ではないんですけど大きい開発、300世帯クラスの開発も進んでる中で、割と子育てがちょっと落ち着いてきた世代が戻ってくるような、そんな機能も入れていきながら、どうしてもまだ駅前っていうのはまだURさんがあったりとか、あと割とおおきな土地の戸建住宅もありますので、ちょっとなかなか若年層の世代には購入いただけるような、まだ値段ではないので、その辺も状況を見ながらですね、10年にとらわれず中長期的な視点で、住宅政策もとらえながら進めて参りたらと思っておりますので、引き続きよろしく申し上げます。

(友田委員)

住宅政策の話でできたんですけどね。今の寺池台とかでもね、例えば大谷幼稚園が出て行った後の開発をすれば、もうそこは30戸とか40戸とかいっぺんに出ても売れるんですよ。そういうような状況なんですけども、やっぱり何が問題かと言いますと、空き家なんですよ。空き家で所得もあるような方で、住まないけども置いたままにしてるって方が割とおられます。たまたまそういったところに中古市場の民間が入って、ちょっと改良して住まれたら、今の中古市場とか、住宅のリフォームみたいなところには、いろんな企業おられてね、それは立派な住宅として提供されます。それも割安でできるんで、ああいう中古市場を広げるっていうのも一つと思います。一応市は窓口持っておられますけども、これがもっと活性化するよう公共の信頼性の高いところをいかした登録制とか、そのあっせん制度とか、そこをもっと頻繁に起こす手法をどうしたらいいとか、その中古が回るようなことを考えると、もう少し若い人も今の敷地の中で、割と豊かな広い住宅を低廉な価格で入手できるみたいなこともできるかもしれないので、そこも一つ考えて欲しいところです。

(増田会長)

11月にもう一度、まちづくり会議の場でご報告いただき、議論していただき、さらに Re:KONGO みたいなところとも連携して策定していただくと、ここにはもう一度、たぶんパブコメをやってるぐらいにこの協議会にもご報告をいただいて、最終の議論ができる。

(事務局：松本)

そうですね、資料4にもお示しさせていただいてる2月ぐらいからちょっと1月後半かちょっとあれですけども、その辺でまた、お示しさせていただきたいと思っておりますので、はい。よろしく申し上げます。

(増田会長)

それでは、少し時間も押ししましたけれども。その他2点ほど追加報告があるということで。お伺いしたいとおもいます。

(事務局：塚本)

それでは、その他の1としまして、ご報告でございます。資料ちょっとございませんので口頭で申し訳ございません。1点目がですね、先日、UR都市機構様の方と、富田林市の方で、ちょうど2日前、10月11日付けで、包括連携協定の方を締結させていただきました。締結の目的としましては、金剛地区のまちづくりをしっかりと進めていくっていう視点で、若者世帯の定住促進であったりとか、地区の課題解決、さらには地区の住民の皆様の生活の質のさらなる向上、こういったことを目的に両者が協力をしていくっていうことで締結をいたしまして、連携事項といたしましては、金剛地区の活性化であったりとか、今回進めております公共施設等の再整備の推進に関する事。さらには、多様な世代の方が生き生きと暮らし続けられるまちづくりの推進に関する事。また、金剛団地などを活用した活性化に関する事などを主な連携事項としております。また今後ですね、皆様のご協力しっかりといただきながら、UR様の方もしっかりと協調いたしまして、また南海様の方ともね、きちんと協力しながらですね。何とかこのまちを盛り上げていきたいというふうに思っておりますので、またぜひ皆様ご協力よろしくお願いいたします。1点目は以上となります。

(事務局：坂口)

資料5「スマートシティ関係プロジェクト（社会実験）の実施について」について説明

(増田会長)

最後の報告ですけれども、何かご質問とかご意見ございますでしょうか。これ毎月されてるマルシェとの関係ですよね。相乗効果が発揮できるようにというふうな形で是非とも考えていただかないと何か競合するような形になるとまずいと思うんですね。それに関して何かございますかね。出荷者が一緒やとかあるいは協力できるとか、何かございますでしょうか。

(吉村委員)

場所設定が、あまり変化ないかと、ぱっと見てね、思いましたんで、もうちょっと金剛全体の地域を考えて、広げた方が良くはないかなというのは、ぱっと見て第1印象なんです。

(事務局：坂口)

はい、場所についてはですね、やっぱり野菜の売り場を、こんなイメージの売り場で。キッチンカーなんですけど。1台持ってくるにしても土地の所有者とか地域の方との調整が必要であって、今この中で、やっとな場所を協力して出してくださる場所を見つけて調整してるところなんですけど、これも見ていただいてね、うちの町会のこの空き地でできそうだとかね。うちの集会所のここできそうだって声があれば、もうどんどん横展開を図っていきますので、今この点線の中の駅前を中心としたこのふれあい大通り周辺のエリアを、まずは、ここで人流を増加してにぎわいづくりの相乗効果を図ろうということやってるんですけども、もっと買物不便な地域とか、新たなコミュニティを作るためにこんなツールがあったらいいなという声があれば、この実施体制のこのチームで、新たな場所づくり、支援、お手伝いしていきますので、どんどん声かけをいただければなと思います。

それから、野菜の販売につきましては、マルシェを毎月1回やってるっていうことで、あと、地産地消、地域農家支援、農業体験、こういったことをコンセプトにしていますので農業を創造する会の皆さんが、マルシェで出店していただいているんですけど、まずは一番にパートナーとして、その出荷のグループっていうか、ルートに乗っていただける調整をしているところです。

(増田会長)

はい、友田委員。

(友田委員)

ちょっと次のページでね、さっき推進体制ってありましたけども、我々金剛ニュータウンを再生とかしていこうとすると、やっぱり民間事業者とか外部人材との連携とか、そういったことがものすごい大事だと思っています。ですからこの今回のスマートシティのプロジェクトについても、今三井さんとか、いろいろ入っていただけるのでそこは連携してやっていきたいと思っています。しかしながら今市の動かし方って言いますと、そこに書いてるように、大阪府と三井さんとでやろうとしてるんですけども、民間と地域の方々ともきちりと対話をして、連携しながらプロジェクトを作り上げていく、相乗効果を高めていく、地域だってマンパワーがそんなにないんですから、そこは連携して、民間の力も借りながら、そして我々の力も貸せるところは貸しながらやっていくっていう、プラットフォームの体制を作ってもらいたい。そこで進めていくっていうことをしないと、民間もいつまでも居られないですから、そこに地域がくっついていかないと、継続したものに絶対になりません。もう何度も民間が入ってつぶれてるのを見てきてますから、そこはきちりと地域が入って一緒に取り組むという形を作って、継続性のあるものにしていかないと、民間いなくなっただけになります。だから、はじめから地域を入れて進めるっていう体制「プラットフォーム」を作ってくださいって、前から言っているのですが全然できてないので、どうかよろしくお願ひしたいと思います。

(増田会長)

はい、事務局何かございますか。

(事務局)

はい、またそういった意見をいただいておりますので、まずはちょっとこれスタートアップさせてもらったんですけど意見を踏まえて、次の展開を考えていければと思っております。

(増田会長)

友田委員の発言もありますようにね、受け皿となるようなまちづくり会議があるというのは非常にこの地域の大きな強みで、その強みというのが、新たにプラットフォームを作るというよりも、プラットフォームのかなりの部分ができ上がってますのでね。その辺りとの連携みたいなやつはぜひ考えていただいたら、新たに、新たなプラットフォームを作るっていう話じゃないわけで。だからその辺りのことはぜひともその実施体制とか役割分担のあたりの中に、そういうことを意識して入れていくということだと思っておりますけどもね。

(友田委員)

金剛まちづくり会議と今私の言っているプラットフォームでちょっと性質が違います。金剛まちづくり会議というのは、プレイヤー以外もいろんな方々、ゲスト、ホストもおられて、そういった方々の幅広い意見を聞きながら進めていくっていう場所で、その中から特に取り組みたい人とかプレイヤーが集まって事業を推進するようなイメージのプラットフォームで、それについてはきっちり作っていかないとプロジェクトはできないので、そこを作って欲しいなということです。

(増田会長)

まさにそうで、まちづくり会議は中間支援媒体というかそういう話で、わっく Café されて一般社団を作られて、ある一つ自立したみたい。あるいは寺池公園の辺りの活動も充実していくみたいな形で、そういう実行組織を生み出していくという機能がまちづくり会議の中にあると思うんですね。そういう、どんどん子どもを産み出して行って実行部隊がたくさん増えていくという、そんな形になると思うんですけどね。

(友田委員)

だからそういう実行部隊としてこのスマートシティのところ、民間と地域が入った、活動団体とかも入った、組織で動かしていくっていう形を作って欲しいということです。でないと民間と対話はできないし、民間のノウハウも我々はわからないですし、そこをきっちり対話すれば、もっといろんな相乗効果を高めるプランが創れるかもしれない。それが全然できてない。そこをきっちりするというをお願いします。

4. その他

(増田会長)

他いかがでしょうか、よろしいでしょうか。はい、ありがとうございました。

司会進行もまずくて予定時間も10分オーバーしているわけですがけれども、何かご発言ございませうでしょうか。それとも終えてよろしいでしょうか。よろしいですか。はいどうぞ。

(吉村委員)

前回イエローカードの話したもので、この基本計画ですけれども、もうぜひ住民の意見、まちづくり会議の意見は極めて尊重していただきたいということは、もうおわかりだと思いますけども、ぜひ言っときたい。よろしくお願ひいたします。

(増田会長)

他いかがでしょうか、よろしいでしょうか。ご協力ありがとうございました。あと、一点だけ金剛バル今年されるんですよね。ご宣伝されなくても大丈夫でしょうか。

(木全委員)

言っているのかどうかと思ってまして、すいません少しだけ。

1月28日に金剛バル開催いたします。場所は中央公園の上の滑り台とかあるところです。今年イルミネーションとかはないんですけども、バルと金剛地域、東金剛も含めて、保育園、幼稚園の園児さんたちが装飾したペットボトルツリーを銀座街商店街の前につつて、1月23日まで点灯する予定ですので、是非皆さんも見に来ていただけたらと思います。あと実行委員会も少人数でして、運営していくのも大変でして当日、前日の準備とかもありますので、まちづくり会議の方も手伝ってくれまして、ほんとに助かっております。またそういう方々にも参加していただければと思いますので、是非よろしく願いいたします。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。皆さんに協力しあいながらということで、よろしくお願い致します。
では、事務局の方にマイクをお返ししたいと思います。

(事務局)

はい、すいません。本日は活発なご議論、いろいろアドバイスいただきましてありがとうございました。最後なんですけども、今後の予定ということで、先ほど構想に係るスケジュール中에서도出てたんですけども、次回協議会は、来年2月頃開催予定しておりまして、また詳細日程決まりましたら連絡させていただきますので、引き続き、どうぞよろしくお願い致します。

本日はどうもありがとうございました。

以上